

----- (はじまり) -----

タケシ「これはいいことを知ったなあ...」

アスカ「昨日頼んでおいた資料の分析は終わっ...。あ、何サボってるのよ」

タケシ「さ、サボってないですよ。人聞きが悪いなあ。前にアンケートの話してたじゃないですか。それでアンケートに関して調べていたんですよ」

アスカ「へえー。どんな調査よ」

タケシ「AとBの2種類の写真を見せて、どっちが魅力的かをシールでアンケートするんですけど、それぞれ事前にシールを貼っておくんですよ」

アスカ「ふーん。それでシールの多いほうに引きずられるか調べたのね」

タケシ「さすが、アスカ先輩。察しがいいですね」

アスカ「で、どうだった？」

タケシ「えっと、これが結果です」

アンケート実験前

=====

写真A

写真B

アンケート実験後

=====

写真A

写真B

アスカ「なるほど、事前にシールが多いほうにアンケート結果が偏っているわね」

タケシ「でしょ。始めは10:3だったのが、17:6ですから、増加分は+7と+3ですよ。実に70%の人がシールの数に引きずられるんです」

アスカ「ちょっと待って。偶然に10人の投票が7:3に分かれる確率は...サンプル数が少ないけど母比率の検定を使うと1.26491ね。すると確率にして、10.3%よ。有意とは言えないわね」

タケシ「そんなぁ。でも、絶対にアンケートって事前のシール数の影響受けてますよ。そんな気がしますから。勘ですけど」

アスカ「勘！？呆れるわ。とにかく統計的には認められないわね。ところで、確認なんだけど写真Aのほうが本当に魅力があるってことはないわよね。例えば、写真Aが可愛い子犬で写真Bが何の変哲もない石とか」

タケシ「そのへんは大丈夫です。写真Aと写真Bは同じ風景を写したもので、若干アングルが違う程度ですから」

アスカ「でも、そのアングルが決定的に魅力の差を作ってるかもしれないじゃない」

タケシ「実はそれも大丈夫なんですよ。同じ実験を今度は写真Aと写真Bのシール数を入れ替えてやってるんですが、結果は先ほどと全く同じだったんです」

アンケート実験前

=====

写真A

写真B

アンケート実験後

=====

写真A

写真B

アスカ「それを先に言いなさいよ。...なるほど、面白い結果ね」

タケシ「でしょ、今度も7:3が14:6になるんですよ。+7と+3だから70%の確率で次の人がどちらに投票するか予測できますよ」

アスカ「ま、とにかく、これでサンプル数が2倍になったわね。計算しなおすと...1.78885か。確率にして3.8%ね。これなら有意差が出るわよ」

タケシ「やった。統計的にもOKですよ。すると事前にアンケートシールを貼っておけばアンケートを誘導できるってことですよ」

アスカ「何だか、大道芸人が投げ銭用に先に帽子の中にお金を入れておくのと似ているわよね」

タケシ「あ、そういったわけでいつもお金が入っているのか...。不思議だったんですよ」

アスカ「でも、これって反対意見を言い辛い会議室の話とも似てるわね。賛

成5に反対5だったら意見は言いやすいけど、賛成8に反対2だったら反対しにくいってやつよ。所謂、同調バイアスね」

タケシ「だったら、アンケートシールを片側だけに貼っておけば効果テキメンじゃないですか」

アスカ「ああ、それは多分ダメね。確か、極端に少数派だと逆に一人くらい反対の意見出してもいいかって感じになるらしいわよ」

タケシ「極端はダメってことか…。でも、そうなるとシールを使った街頭アンケートって危うい気がしますね。アンケートって難しいな…」

アスカ「流石にアンケートしてないのに先にシールを貼っておくってのは反則だけど、例えば他の地区のアンケート結果を参考に見せながら、アンケートすると誘導できそうだもんね。ま、私はそんな卑怯なマネはしないけどさ」

タケシ「えっ！社員旅行のアンケートで、あんな悪魔的な手法をとった人とは思えない…」

----- (つづく) -----